

## 動物園が大学の教室に！ 最先端 AI 解析×現場フィールドワークで学ぶ 新科目「動物園からひろがる環境学」を 2026 年度秋学期に開講

京都産業大学生命科学部産業生命科学科(2027 年 4 月から環境生命科学科に名称変更)では、2026 年度秋学期から新たな授業科目「動物園からひろがる環境学」を開講します。生物多様性の損失や野生動物と人間社会との関係が世界的な課題となる中、身近な動物園を入口として、環境問題を自分自身の暮らしと関連付けて考える科目です。京都市動物園の副園長兼生き物・学び・研究センター長である田中 正之 博士を本学の客員教授として迎え、動物園を入口に、現代社会が直面する環境問題や生物多様性を幅広く学びます。



### ■「動物を見る場所」から、環境と社会について考える場所へ

動物園には、一般に「種の保存」「調査研究」「教育」「レクリエーション」という 4 つの役割があるとされてきました。現在では、それらに加え、地域社会や地域の自然・文化と連携しながら、生物多様性を守り、市民の行動につなげる役割も期待されています。

本授業では、京都市動物園で実際に行われているさまざまな活動を題材に、野生動物の保全、動物福祉、地域の生物相調査、標本を用いた教育・研究、サイエンスコミュニケーション、ICT・AI を活用した動物研究など、多角的な視点から「現代の動物園」を学びます。

### ■授業で取り上げるテーマ

京都市動物園で飼育されているニシゴリラを通してアフリカの生息環境と私たちの生活とのつながりを考える授業、動物福祉(アニマルウェルフェア)を学ぶ授業、京都市内の森林に設置した自動撮影カメラによる野生動物調査を題材とする授業などを実施します。さらに、ICT や AI を用いた動物の観察・飼育記録の解析など、最新の研究も取り上げます。

## ■京都市動物園そのものが「教室」に

本授業の大きな特長は、京都市動物園で行うフィールドワークです。学生は実際に園内を歩き、展示解説や来園者の行動を観察します。「どのような説明なら、科学的な情報がより分かりやすく伝わるのか」という視点から課題を発見し、自ら展示解説の改善案を考えます。

フィールドワーク後は、大学で成果を発表し、相互評価を行います。講義を聴くだけでなく、現場で観察し、課題を発見し、解決策を考え、他者に伝えるまでを一連の学修とします。最終回には、これまでの学修を踏まえ、「10年後の動物園の未来」をテーマにグループディスカッションを実施します。



過去に京都市動物園で実施したフィールドワークの様子

## ■2027年4月スタート「環境生命科学科」の学びを先取り

新学科では、生命科学を基盤に、生物多様性や生態系、自然環境、農業・食料など、私たちを取り巻く環境の課題を幅広く学びます。重視するのは、実際の自然や社会に出て、自ら見て、考える教育です。「動物園からひろがる環境学」は、その考え方を先取りして2026年度秋学期から開講します。

動物園の動物1頭から、その生息地へ。生息地から生物多様性へ。そして、地域社会や私たち自身の暮らしへ。「動物園」を入口に、環境と生命、人間社会とのつながりを考えます。京都産業大学生命科学部は、京都のさまざまな施設や専門家と連携しながら、教室の中だけでは完結しない新しい環境生命科学教育を展開していきます。

### ■取材いただけるポイント

- ・ 京都市動物園でのフィールドワークの様子（展示解説・来園者行動の観察）
- ・ ICT・AIを活用した動物の観察・飼育記録の解析に関する授業
- ・ 「10年後の動物園の未来」をテーマとするグループディスカッション
- ・ 担当教員へのインタビュー（科目の狙い、新学科で目指す教育）

## 「動物園からひろがる環境学」科目概要

■科 目 名: 動物園からひろがる環境学

■開 講: 2026 年度秋学期

■開講学部: 京都産業大学 生命科学部

■配当年次: 2 年次

■単 位 数: 2 単位

■担 当: 田中 正之客員教授、

工藤 宏美(生き物・学び・研究センター 研究推進員) ほか

■主要内容: 動物園の役割、生物多様性保全、野生動物と環境、サイエンスコミュニケーション、動物福祉、標本、地域の生物相調査、ICT・AI を活用した研究、植物園・水族館との連携

■授業の主な流れ

- ・ 動物園の社会的役割、生物多様性保全、動物福祉について学ぶ
- ・ 京都市動物園や地域で行われている研究・保全活動を知る
- ・ 京都市動物園で展示解説と来園者行動を観察する
- ・ 展示解説の改善案を作成し、大学で発表・相互評価する
- ・ 「10 年後の動物園の未来」をテーマにグループディスカッションを行う

■担当者プロフィール

田中 正之 京都市動物園副園長兼生き物・学び・研究センター長、  
 京都産業大学客員教授  
 博士(理学)  
 京都大学霊長類研究所助教、同大野生動物研究センター  
 准教授を経て、2013 年から京都市動物園生き物・学び・  
 研究センター長。2024 年から現職。



田中 正之客員教授

### 本件に関するお問い合わせ先

|                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| 内容について: 京都産業大学 生命科学部事務室  | TEL:075-705-1466 |
| 取材について: 京都産業大学 広報部(広報担当) | TEL:075-705-1411 |